
<議事要旨> 第1回 東横堀川水辺空間デザイン会議

1. 開催日時 令和6年12月19日(木) 17:00~18:30
2. 開催場所 大阪市立中央会館 2階 第5会議室
3. 出席者
【有識者】3名(学識経験者)
【大阪市関連部局】建設局 公園緑化部 調整課
建設局 道路河川部 橋梁課
【事務局】建設局 道路河川部 河川課
4. 議 事
 - (1) 開会
 - (2) 要綱について
 - (3) 学識経験者紹介
 - (4) 座長選任について
 - (5) 議題「東横堀川水辺空間デザイン指針(案)について」
 - (6) その他(第2回予定)

■要旨

- 東横堀川水辺空間デザイン指針(案)について、5ページのエリア分けの考え方は「東横堀川等の水辺の魅力空間づくり基本方針」(以下、基本方針)で示されているエリア分けの考え方との整合を図るべきであり、再考が必要と思われる。
- 例えば、今後、拠点として整備を進める箇所を抽出し、重点的に議論を深める方が良いと思われる。
- 次回の会議では6ページ、7ページのような現況整理図などをもとに議論材料となる素材を集め、拠点となる場所や周辺の状況を把握しながら議論を進める方が良い。
- 東横堀川には、歴史があり特徴的な橋が多く存在するため、今後の橋の維持管理において、架け替え等行う場合に、現況と同様の構造とするのか、河川空間や遊歩道との関係を考慮した構造とするのかという方針は、河川空間のデザインに大きく影響を与えるため、架け替えの計画がある場合は一体的に検討することが重要であると思われる。
- 橋詰や橋下の空間についても、遊歩道との関係性を意識したデザインとするなど、河川担当と橋梁担当で連携して検討を進めることが重要である。
- 例えば、15ページの各空間構成要素についても、透過性の高い高欄や照明灯などをシンプルで目立たない構造とするなど、各視点場と河川空間の「見る一見られる」の関係性についても、デザイン指針で議論すべき内容と思われる。
- 基本方針におけるめざす水辺空間の1つである全長約2.5kmの東横堀川沿川を拠点から拠点への縦断方向にどうネットワークで繋ぐのかということ考えた上で、横断方向のまちとの連続性を考えるべきである。

- 6 ページにおいて、沿川エリアがどのような機能や特徴を持っているのか、アクティビティがどこで生まれるのか、個性を持った場所がどこなのか、などを整理していくことで、より議論を深めることができるのではないかと。
- 15 ページの各空間構成要素に「変化－統一」のグラデーションをもたせるというのではなく、全川で共通の考え方とするものと、拠点ごとにアクセントとして変化をもたせるものに分けてエリアごとに考える方が、東横堀川には合うように思う。